

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102724
法人名	有限会社 コーボー
事業所名	グループホーム コーボー
所在地	鹿児島県鹿児島市西陵5丁目12番3号 (電話) 099(283)6723
自己評価作成日	平成26年11月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域行事への参加、公園散歩、買い物へ出掛け地域の方と交流を深められるように積極的に外出の機会を作っています。②前かがみの姿勢が基本となり食事・排泄・立ち上がりの生活行為が出来るように工夫しています。③口腔ケア・嚥下体操を継続する事により誤嚥を防ぎ「口きれい・肺きれい」に取り組んでいます。④重度の認知症の方に対し表情やほんのわずかな言動よりその方の思いに気づき、スタッフ同士で情報を共有して日々の介護に繋げるようにしています。⑤自家製ヨーグルト・繊維質の多い食材・水分補給で心地よい自然排便がトイレで出来るよう工夫しています⑥季節感のある料理・行事食を利用者や家族の意見を取り入れ昔のその時々々の思いや様子を懐かしんでもらえるような工夫、雰囲気づくりをしています。⑦利用者の状態に合わせて食材を工夫しています。⑧施設内で野菜を栽培し利用者と一緒に収穫、食材に取り入れることで季節を感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

メイン通りのバス停前に位置する「グループホームコーボー」は周辺に大型スーパーや銀行、中学校や公園、また同系列の施設もある利便性の良い環境にある。管理者は地域行事に積極的に参加し、中、高校生の職場体験の受入れなど地域との交流を深め利用者が地域の一員として暮らせるように努めている。運営推進会議に利用者の動画を映し出すことで家族や地域住民の参加も多く、常に家族や利用者、職員に情報の発信を行うことで、日々のケアに役立てている。職員は明るく有資格者も多く利用者はその専門性を活かしたサービスを受けることもでき質の高さがうかがわれる。各ユニットごとに責任者が置かれ作品づくりや利用者の体調管理を考えた体操や散歩、ドライブや菜園の収穫などで五感を刺激し、その人らしく生活できるように工夫がみられる。災害訓練も関連施設と地域住民の協力で行われ、緊急医療連携も取れており家族や利用者の安心と安全が守られたホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事業所内に掲示し、毎朝の申し送り時に職員一同で理念を唱和している。また理念をもとに年間目標を決め理念の共有と実践につなげている。さらに理念を再認識してもらうために職員全員にアンケートを実施した。	グループホームコーボーの理念の他に、介護度が上がってきたことを踏まえ、毎年4月に年間目標を掲げ、利用者が「ホームが家である」ように、また職員は常に「おだやかに」をモットーとし実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入している。学校や地域の行事へ積極的に参加し、公園散歩・スーパーへの買い物時、地域の方々と挨拶や言葉を交わし、ホーム内の畑については、入居者家族や地域住民、ボランティアから作物の栽培方法など情報をもらっている。地域の夏祭り・運動会見学にも参加している。	地域の夏祭りの参加や運動会の見学、中学生の実習受け入れ、菜園の手伝いもある。また清掃活動にも参加しており、おはら祭りには踊り連がホームの前で披露してくれるなど町内会の回覧板を通して情報の収集と広報を図り日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	人材育成の貢献として中学、高校の職場体験学習の受け入れを行い認知症について学習していただいている。また、お化粧品や畑の手入れなど地域のボランティアを受け入れ認知症の方々と触れあい認知症の人の理解を深めてもらっている。入所や認知症についての相談等や他のグループホームの状況などの情報も発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動状況や利用者の状況を写真・動画で紹介し眼に訴えることで活動をわかりやすく報告している。また新聞、テレビ、公的機関等の最新の情報を発信している。また外部評価の結果や改善等の取組等を報告し助言や意見をいただいている。また家族の体験談、意見や質問等など気軽に話し合える場へとってきている。	町内会長や民生委員をはじめとする運営推進会議は利用者の生活の様子を動画で見せることで家族や地域住民の参加も多い。管理者は家族や地域に向け情報の発信元となり豊富な議題を作成し、そこでの話し合いや意見はサービス向上に活かす取り組みである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>長寿あんしん相談支援センターの職員の運営推進会議の参加時、またメールにて直面している課題や実情の相談や色々な情報をいただき、連携を深めサービスの質の向上に繋げるようにしている。</p>	<p>市町村担当者とはメールや窓口で現状報告や課題を相談し、地域包括支援センター主催のケア会議にも出席している。介護相談員の受け入れや運営推進会議では指導を仰ぐなど、協力関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を中心に、勉強会を月1回開催し、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフルームには身体拘束の3原則などについて掲示し職員の意識付けを行っている。日中は、居室玄関の鍵をかけず、職員が徹底した見守りや声掛け、寄り添いながら一緒に、散歩や気分転換をして安全で自由な生活をしていただけるよう支援している。</p>	<p>身体拘束委員会において月1回の勉強会の他に内部研修会を年2回開き禁止の対象となる具体的な行為を職員は理解している。管理者は新聞の記事内容も全員に回覧し情報の共有を図り、言葉の拘束、また車椅子の利用者は椅子への移動や足裏を床につけるなどの指導もされている。玄関、非常口の鍵もせず見守りや同行で拘束をしないケアを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>当ホームにて、高齢者虐待マニュアルを作成し、勉強会を開催したり、報道関係で取り上げられた場合、朝のミーティングで話し合ったり、回覧にて職員への周知徹底を図り、理解を深め、遵守に向けた取り組みを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度については研修会参加や資料等により理解はしているが家族に積極的に話すことはない。成年後見制度利用者は1名いらっしゃる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書の読み合わせを時間をかけて行っている。またわからない点は十分な説明を行っている。介護報酬の改定時には運営推進会議、面会時に説明を行い、同意書により署名捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時、行事、家族会、運営推進会議で常に、問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりをしている。「相談・苦情申し出窓口」の設置を行い、管理者を窓口とし家族代表・地域協力者を第三委員として置いている。介護相談員の訪問を毎年、受け入れ、利用者と家族等の相談にのっていただいている。	管理者は面会時や家族会で家族と直接会うことを心がけ、相談や意見を聞いている。介護相談員や地域協力者の第三者委員の受け入れ、また法人全体のアンケートで見直し反映に努め、居室の洗面所のお湯が欲しいとか、看取りに関しての要望が出たが、家族に説明と対処方法なども伝え確認済みである。今後はホームとしてのアンケートも検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り・ミーティング時に、意見や要望を聞くように心掛け、質の向上に繋がると努力している。また個人的にも意見、相談を受けやすい雰囲気づくりを行っている。	各フロアごとにリーダーと行事担当者を決め職員からの意見や要望はしっかり受け止め、否定はせず受入れ後で判断する体制である。物干し場のベランダの必要性や風呂場の改装なども要望のあった改善であり、個人的な相談もある。職員の意見が運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者をはじめ職員の努力や実績・勤務状況を把握したうえで、昇給や資格手当につなげ、各自が向上心や、やりがいを持って働けるよう職場環境の整備に努めている。資格修得を目指す職員が多くなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>多くの職員が研修に、参加出来る機会を設け、研修報告書を提出し職員が閲覧出来るようにしている。また月1階の事業所内研修およびグループ内の接遇セミナーなど全員で技術や知識を身につけ、個々の質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム19箇所のグループホーム管理課が統括して勉強会等の案内がある。また月に1回の19箇所合同のミーティングおよびグループ内老健、特養において情報交換、勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期面談にて、生活歴や身体状況等を把握するように努め、場合によっては、家族の協力を得て本人の思いや不安を受け止め言葉に出せない方は、本人のしぐさや表情からの気づきをもとに信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族面会時には「何か相談事はないですか？」とこちらから声を掛け、要望等を引き出すようにしている。また、面会に来れない家族については電話にて近況を伝えるようにしている。また、言葉遣いも事務的にならないよう話しやすい雰囲気心を心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期相談時、本人の状態やご家族の思いを確認し、本人に一番適したサービスを見極め支援の提案をしている。早急な対応が必要な方には、他サービスへ繋げるなどの対応をしている。(他GH・老健・特養ショート・宅老所・ケアハウスなど)</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先輩である利用者から生活の知恵や技を覚えてもらう機会を多くもてるよう工夫している。可能な限り野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ等のお手伝いをしていただくように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の様子や職員の思いを面会時・電話できめ細かに伝えている。家族との関係も良好で遊び感覚で面会に来られ職員と家族が雑談することも多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出(自宅、子や孫の家、お墓参りなど)や外泊の機会を持ってもらえるよう支援している。昔馴染みの友人・知人・親族の訪問をいつでも気軽に訪ねてもらえるようにしている。	知人、友人、親戚の訪問があり、家族の協力で墓参りや美容室、外泊もある。自宅への外出の機会や趣味を活かして和裁や大正琴なども楽しんでいる。本人がこれまで大切にしてきた関係継続の支援となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように、皆で楽しく過ごす時間や気の合う利用者同士で過ごせる場所や場面づくりをするなど、またその時の相性で席替えをおこなうなどの他、職員が調整役となって支援している。コミュニケーション困難な方は、職員が随時、間に入り孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年前に退居された家族が訪ねてきたり、地域でお会いした時は思い出話をしたりとつながりを持ち続けている。困り事の相談等を受けたり、病院や他事業所に入居された方の所へも訪ねるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、本人がどのように生活したいか会話や行動、表情などから思いを気づき、意向に添えるよう、家族・職員間で随時、相談や検討をしている。	意志伝達の難しい利用者は家族からの情報と会話や表情から読み取り、ミーティング時などで情報を共有し本人本位の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人にとっての生活歴や馴染みの暮らし方は毎日を安心して暮らしていただく為とても重要な事であることをご家族・本人に理解していただき、情報を伝えてもらえるよう、継続的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方や生活のリズムを理解することにより、家族・友人など情報を得ながらその中で出来ないことより出来る事・やりたいことに注目しその人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の要望を聞き(言葉に表せない方からは表情・行動からの気づき)個別援助記録の内容をもとに課題の把握をし、定期的にモニタリングを行い家族にも提示、共に読み説明して自由に意見・疑問などを出してもらい現状に即した介護計画書を作成している。	利用者、家族の意見や要望を踏まえ、定期的な話し合いで作成され家族に提示されている。それぞれの意見やアイデアが反映され、職員の意見も取り入れた介護計画は利用者の状況変化に即した見直しもされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の介護記録・身体状況記録・介護支援経過記録に状態変化や気づき、ケア内容を記入し職員全体で情報を共有し日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の希望により訪問マッサージやフットケア、訪問看護の導入、また利用者・家族の状況に応じて、入院、通院に同行出来るよう体制を整え必要な支援は柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>年2回の防災訓練には田上分遣隊、無断外出時には田上派出所と連携を取っている。また地域行事の際にはボランティア・町内会長・民生委員・中学校の協力を得ながら支援参加している。また高齢者いきいきポイント推進事業のボランティアの活用を始めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。必要に応じて、受診の付き添いやご家族とも同行しており、普段の様子や変化を伝えるようにしている。</p>	<p>利用者のほとんどが家族の希望で、母体の病院であり、かかりつけ医や希望の病院受診もある。管理者は早めの受診を心がけ、他科受診も家族と協力し支援している。受診結果の情報も共有し、適切な医療が受けられる体制である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>提携医療機関にて「24時間ホットライン」を設置し、緊急時は医師・看護師より指示をもらうなど医療介護が行えるよう連携体制が整っている。状況に応じて訪問看護を利用している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはお見舞いに行き、家族・協力医療機関と情報を交換して状況把握に努め事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るようアプローチしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人と日常の会話の中そして家族と面会時、担当者会議の際に重度化・終末期の有り方について意向を確認している。また緊急時の搬送先希望表にご家族の意向確認を得られるようにして職員全員で情報を共有している。</p>	<p>入所時や面会時に家族や利用者、重度化や終末期に向けた事業所のできる最大限の方針を説明し話し合っている。協力医療搬送先などの希望の確認もとれており、管理者と職員は情報を共有している。</p>	<p>家族との話し合いで終末期に向けた方針の共有が出来ているが、文章化することで、お互いが納得のいく支援につながるため、書面での確認が望まれる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員で勉強会を開き急変や事故発生時に応急手当や初期対応ができるように備えている。また、急変時のホットラインが設置してある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、5月・11月に田上分遣隊の立会による昼と夜の防災避難訓練のほか地震など災害に関する訓練をなるべく毎月、実施するようにしている。また、毎月防火自主点検を実施している。また、近隣の関連施設と災害時の連携をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声かけや関わり方を年長者として敬意を払い馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならないようお互いに注意しあい職員の意識向上を図っている。また記録等も個人情報に十分配慮して取り扱いと管理を行っている。また、運営規定の秘密保持・個人情報の保護について見直しを行った。グループ内で行われる接遇セミナーに参加している。	関連グループ全体で年4回のプライバシーの研修会や接遇セミナーなどが開催され、職員は一人ひとりの人格の尊重と目線を合わせた言葉かけの対応を理解し接している。利用者の個人情報も管理者で守られ、プライバシーの確保につながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人のペースに合わせ理解できる様にゆっくりと分かり易い声かけをしたり、意思表示が困難な方にはしぐさや表情などからの気づきから読み取った些細な事でも一人ひとりの利用者が決められる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人々のペースを大切にし体調により朝寝・昼寝も出来、家族・スタッフとおしゃべりを楽しんだり、利用者の思いを大切に見守りながら日々の生活をしている。食事の時間、レクリエーションなど強要しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、自己決定のしにくい利用者には職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿うよう支援している。また行きなれた理美容院に行ったり、訪問理美容やボランティアの美容を利用し好みのカットにしている。また月1回「きれいになりましょう」の日には地域ボランティアが来訪し口紅・マニキュアでおしゃれを楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを相談したり食材の下ごしらえや味見をしてもらい盛り付け・片付けまで職員と共に行い同じテーブルで楽しく食事が出来るように支援している。また、肉嫌い、ウリ系の苦手な入居者には別メニューで対応している。また、コーホー畑で栽培した季節の野菜と一緒に収穫、食卓に出す事で楽しんでもらっている。	入所時に嗜好調査もされ、各階の料理担当でバランスの良い食事が提供され、菜園で収穫した食材や月1回はドライブの日が決められ、弁当や外食もある。利用者も力量に合わせた食事の準備や片付けなど食事を楽しむことのできる支援である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人々の嗜好・習慣・体調を考慮しバランスの取れた食事・を提供している。水分については個別にペットボトルに水を準備し脱水にならないように管理している。医師、管理栄養士と連携をとり高カロリー補助食品・ムース食なども出してもらっている。これだけに頼らず嗜好品や食べやすいものなどで色々工夫(肉嫌い、野菜嫌いなどは抜いたり別食材に変更)している。嚥下機能の落ちている入居者へ刻み、ミキサー、とろみ、ムース食品の対応や水分補給にもとろみを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い磨き残しや舌苔がないか確認している。義歯、ブラシ、義歯ケースの消毒や協力歯科医院に受診・指導も受けその人に合った口腔ケアを行っている。「口きれい肺きれい」の徹底に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努め、「トイレで気持ちよく排泄出来る」ことを基本にしている。また紙パンツから布パンツへの移行も個人の状態に応じて検討・実施している。	排便はチェック表で、排尿は時間帯とこまめな声かけで日中は全員、トイレでの排泄である。尿失禁もなく、リハビリパンツから布パンツに移行した利用者もおり、気持ちよく排泄ができるように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食材・自家製ヨーグルトなどを毎日の食事に取り入れ工夫している。個々の状態に合わせて散歩や生活リハビリを通して適度な運動を行い、提携医療機関の指示のもと緩下剤調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	温泉を利用している。お風呂の改修を行い、入居者の体調や希望を確認しゆっくり入浴できるよう支援している。また、気の合う入居者同士でゆっくりと入浴したり、入浴を拒む人に対しては、言葉掛けや対応の工夫、チームプレー等(相性の良い職員と交代)によって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。また、体調により入浴できない場合は清拭などで対応している。	週3回の入浴ではあるが、本人の希望や体調に合わせ、清拭や足浴もある。源泉からひいた温泉は職員の希望もあり個浴のできる浴槽も改装済みである。シャンプーも本人の希望の物を使い個々に応じて入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中にレクリエーションや軽い運動、日光浴などで活動的に過ごしてもらい自然で快適に入眠してもらっている。消灯時間を設定せずに個々の希望に合わせてテレビを見てゆっくり過ごしたり眠れるように支援している。寝付けない方には飲み物等を準備しておしゃべりをするなど配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し職員は入居者一人々の薬の効能・副作用・用法・用量について確認している。処方変更時にはその都度申し送り、その後の状態変化の確認と記録を行い主治医の意見を求めている。服薬時には本人に手渡し服用確認または介助している。また、薬の変更時は家族に連絡、承諾してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事料理や毎日の料理方法、など利用者の知恵・経験を発揮する場面を作っている。事業所内の自家栽培園の植え付け・草取り・収穫などを共に行い楽しんでる。外食・外出・地域行事参加等の楽しみ事を利用者と共に話し合い行っている。またインターネットで故郷の動画をテレビで紹介すると懐かし自然な笑顔が出ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じ近くの公園やスーパーに買い物・散歩に出掛けたり、近辺へのドライブ(季節ごとの花見など)を積極的に取り入れている。また家族や本人の希望により(外出・外泊等)随時対応している。	天気の良い日は近くの公園の散歩やスーパーに買物に出かけ、また玄関先の菜園を眺めてお茶を飲んだり、年間行事はリフト車対応でドライブや四季折々の花見を弁当持参で楽しんでいる。家族の協力で外出や外泊もあり、一人ひとりの希望にそった外出支援となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の能力に応じて金銭管理をしている。手元に小遣いを持っている方も有り、管理できない方は買い物時のみ財布を手渡し支払ってもらうなどの工夫をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて、日常的に電話しやすい雰囲気づくりや手紙も出せるように支援している。個人で携帯電話の希望する入居者には家族と相談の上、所持してもらっている。特に遠方の家族は電話での会話を支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間ではご飯の炊けるにおい・食材を刻む音・茶碗を洗う音・好みの音楽、テレビ・季節ごとのフロアの飾りつけなどを共に行ったりして生活感や季節感を意識的に取り入れ居心地良く暮らせるよう工夫している。</p>	<p>玄関を入るとイベントで撮影された笑い顔の大きな写真や季節の飾り物があり、対面式キッチンのある食堂兼ホールからは生活感が漂い、利用者の身体状況に調整された椅子やテーブル、移動式畳間が各ユニット毎に配置されている。広いホールは明るく清潔であり居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール・廊下に椅子やソファを置き気の合う入居者同士・家族・スタッフも含め、思い思いに過ごせるような場所を提供している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や生活歴を考慮し、家族と相談しながら思い出の品々・写真・仏壇等を持って来て頂けるように声かけし、本人や家族と共に思い出話をしながら飾り付けをしている。	居室はベッド、タンス、洗面台の備え付けであり、仏壇やテレビまた好みの小物や写真で飾り本人が使いやすいように配置されている。面会時に家族と一緒に過ごすテーブルセットを置く利用者もあり、本人が居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態にあったテーブルや椅子を用いたり、(椅子、テーブルの高さ調整)車椅子が自由に行き来できるスペースを確保している。個々の身体状況に応じてトイレ・ローカなどの居住環境が適しているか見直し、入居者一人々に適した介護環境づくりを行い、安全確保と自立への配慮を工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない